

【概要】

(1)はじめに

科学技術・学術政策研究所(以下 NISTEP)では、科学技術に関する国民意識データを収集し、科学技術イノベーション政策の立案・推進に資することを目的として、2009年度から、「科学技術に関する国民意識調査」を実施している。

本 2022 年度調査(2022 年 6 月調査)は、15 歳から 69 歳までの男女合計 6,600 人にインターネットを使って調査したものである。

(2)調査の概要

本調査は、科学技術イノベーション政策の立案・推進に資する基礎データの提供を目的として、2009 年度以来、NISTEP が科学技術に関する国民意識を把握するために継続的に実施している。

1)調査対象

インターネット調査会社にモニター回答者として登録している者である。

2)調査期間及び調査方法

2022 年 6 月にインターネットによって実施した。

サンプル数は N=6,600 で、回答者年齢は 15-69 歳、サンプリングの層化として、男女同数(男性 3,300 名、女性 3,300 名)、15-19 歳、20-24 歳、25-29 歳…60-64 歳、65-69 歳で同数(11 の年齢層、1 年齢層当たり 600 名)とした。

3)調査時点

2022 年 6 月 1 日から 6 月 8 日にかけて実施した。

4)調査項目

今般の調査では特に SDGs に対する認知度、科学技術・イノベーションの SDGs への貢献の期待を把握することが目的である。

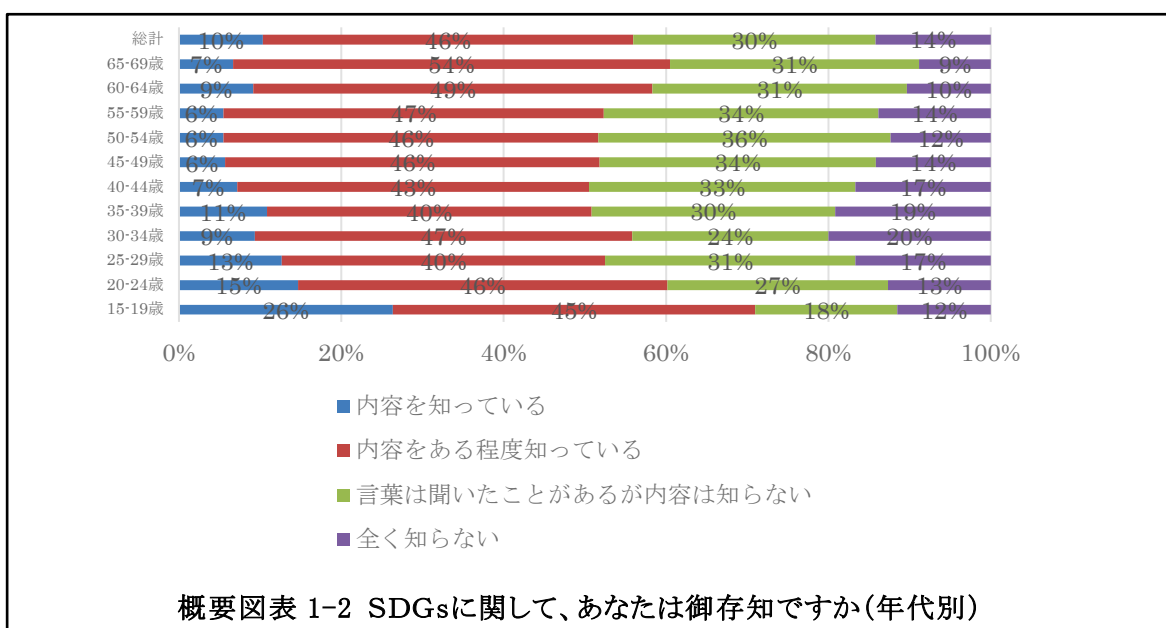
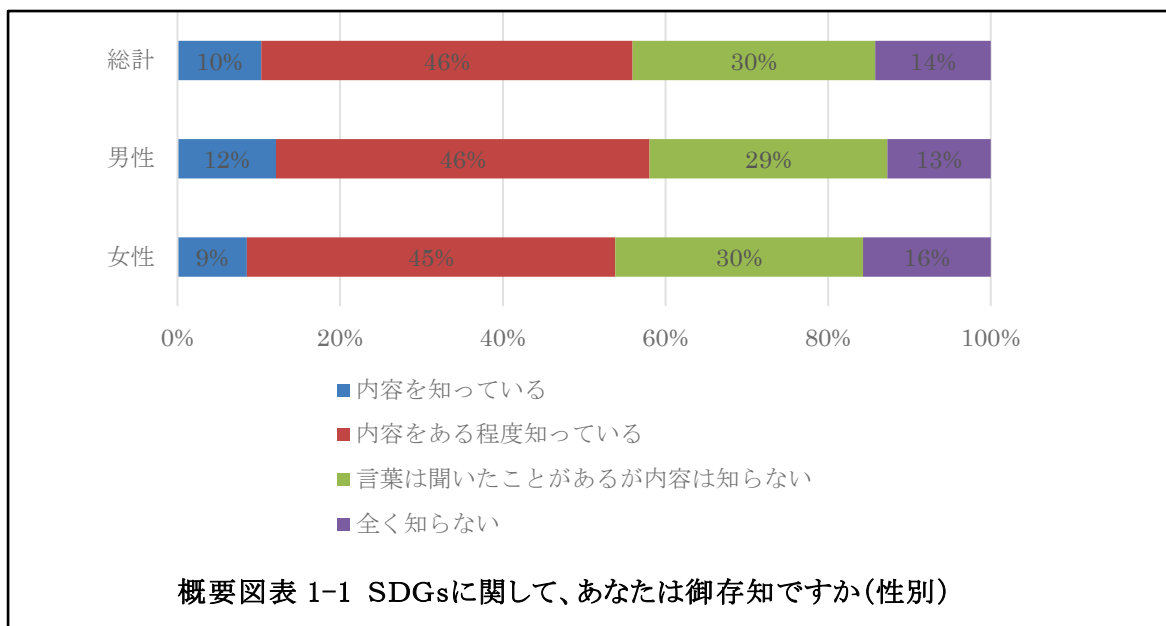
(3)調査結果の概要

概要では、調査結果のうち、1)SDGs に関する国民の意識の主な結果について示すとともに、2)SDGs 以外の科学技術政策に関する意識についても紹介する。

1) SDGs に関する国民の意識

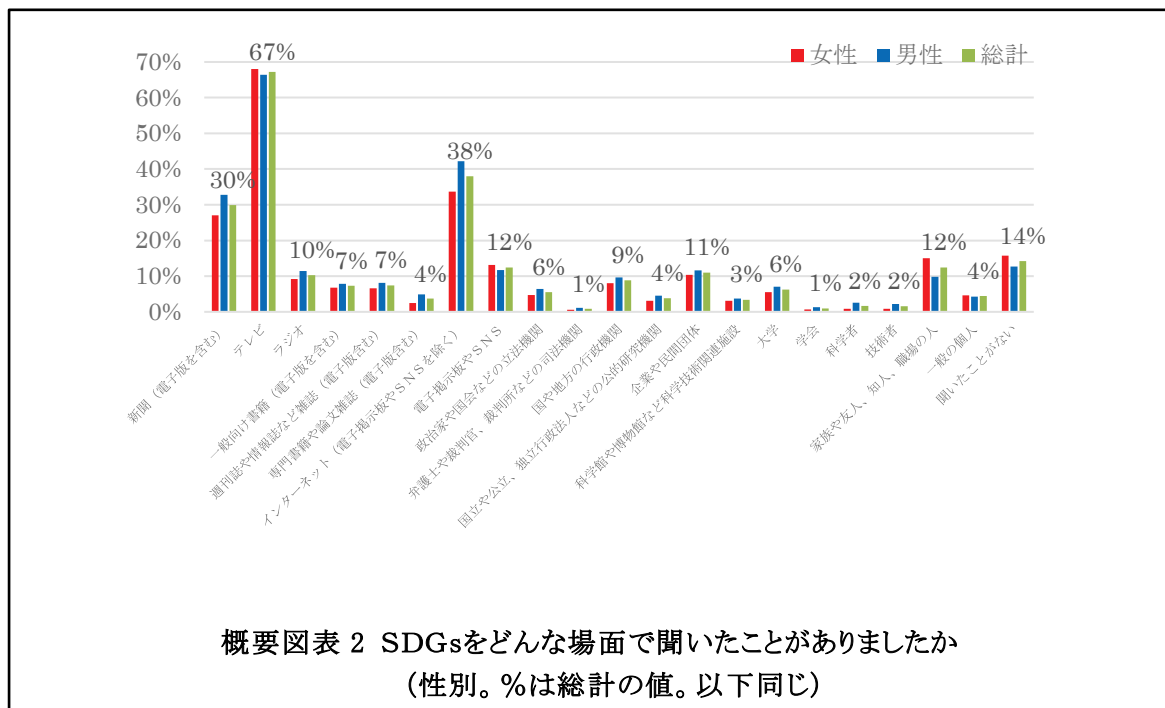
①SDGsに関する認知状況

SDGsへの認知について伺ったところ、「性別」(概要図表 1-1)では男性(内容を(ある程度)知っている 58%)の方が女性(内容を(ある程度)知っている 54%)よりも高い一方、「年代別」(概要図表 1-2)では若い世代(24歳以下)とシニア世代(60歳以上)で高いことが判明した。



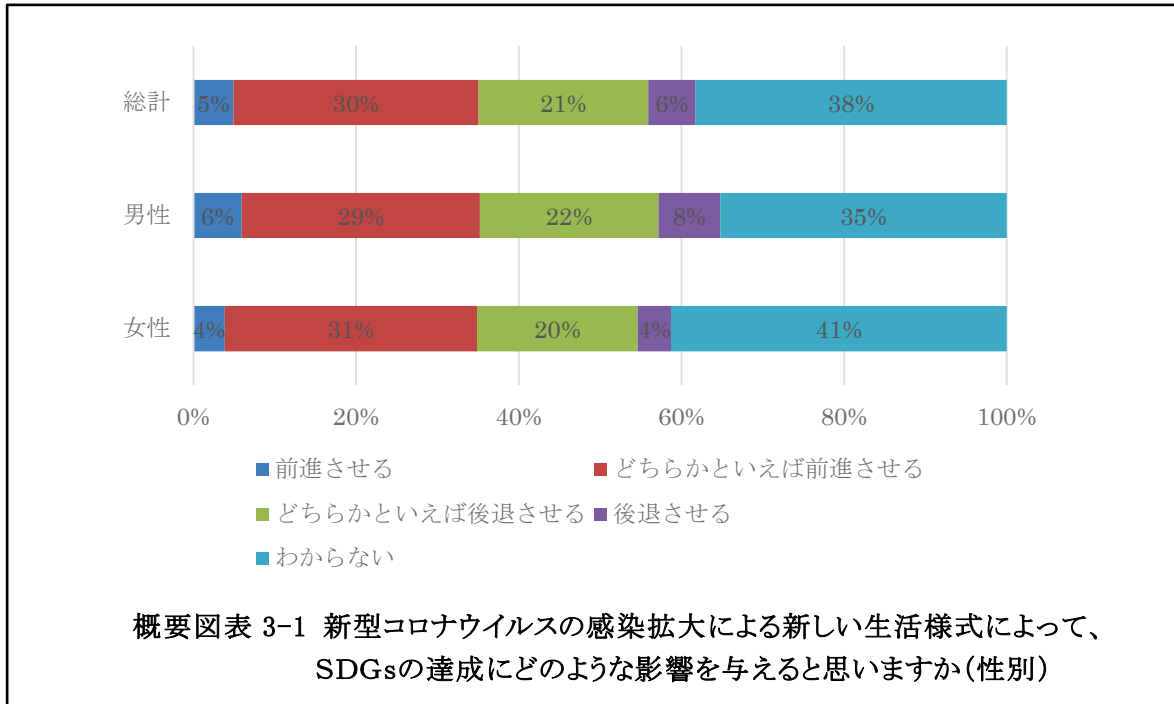
②SDGsの把握手段

SDGsをどんな場面で聞いたことがあるか訊いたところ、こちらも「性別」(概要図表 2)では男性はインターネットや新聞などが高く、女性はテレビや家族や友人、知人、職場の人で多くなっている。

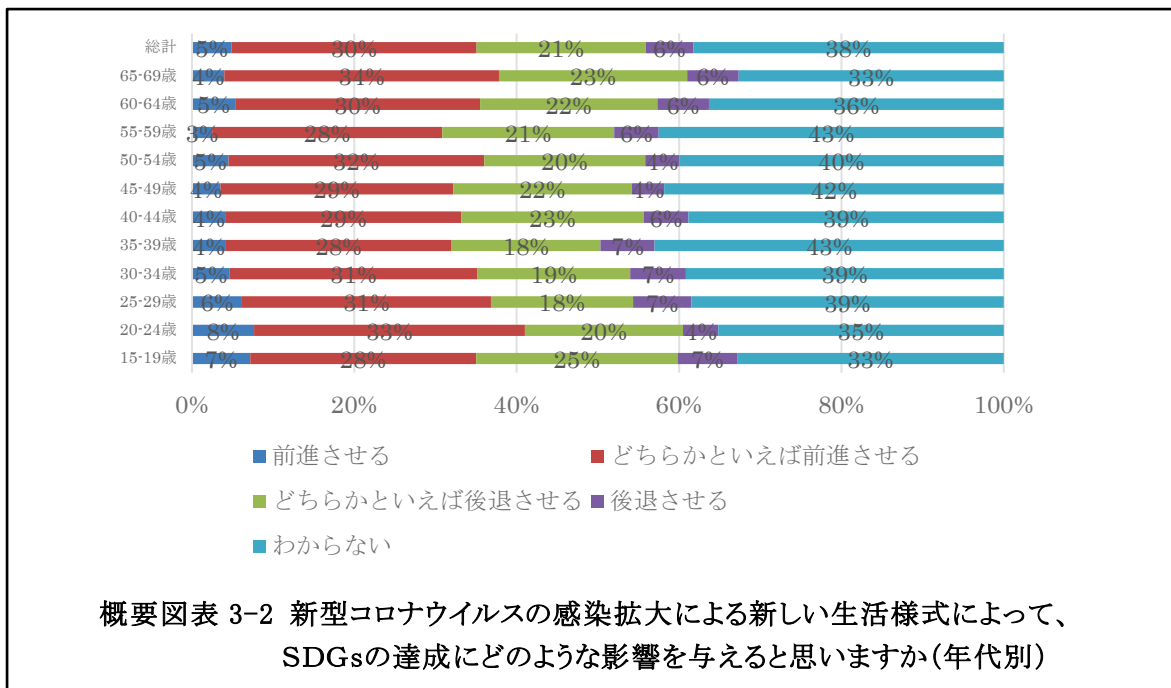


③新型コロナウイルス感染拡大がSDGsの達成に与える影響

新型コロナウイルスの感染拡大による新しい生活様式によって、SDGsの達成にどのような影響を与えると思うかについて訊いたところ、「性別」(概要図表 3-1)では男性((どちらかといえば)前進させる 35%)は女性((どちらかといえば)前進させる 35%)と比べて差はない。

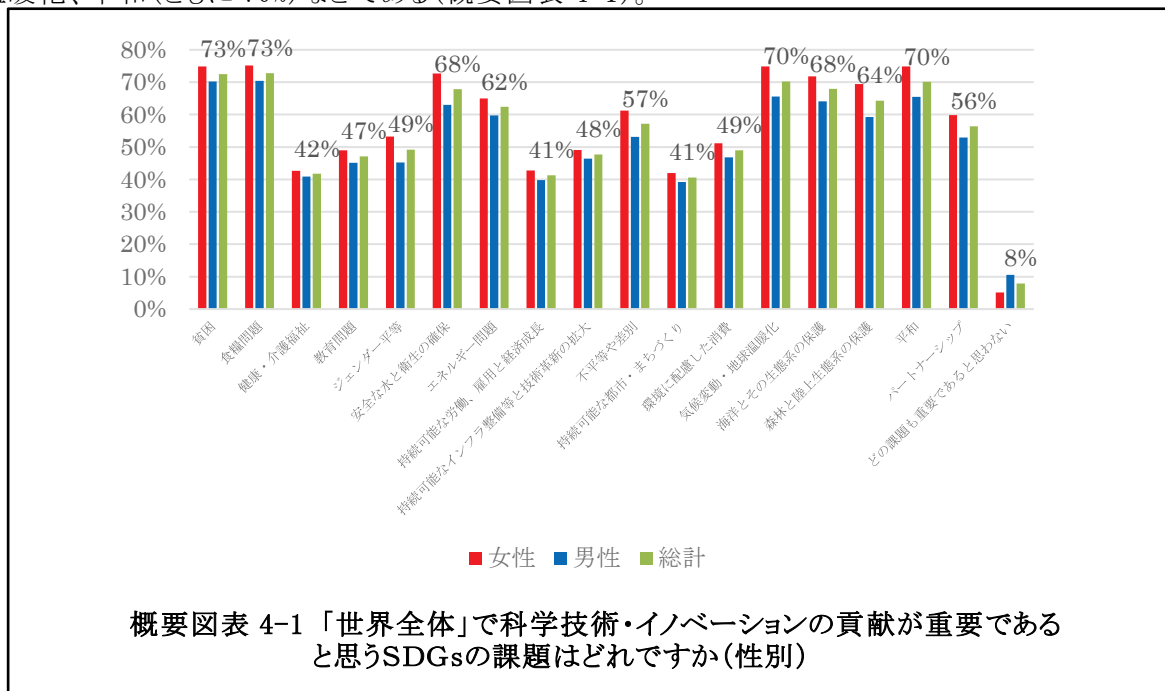


また、年代別に見ても(概要図表 3-2)特に構造に差は見られない。

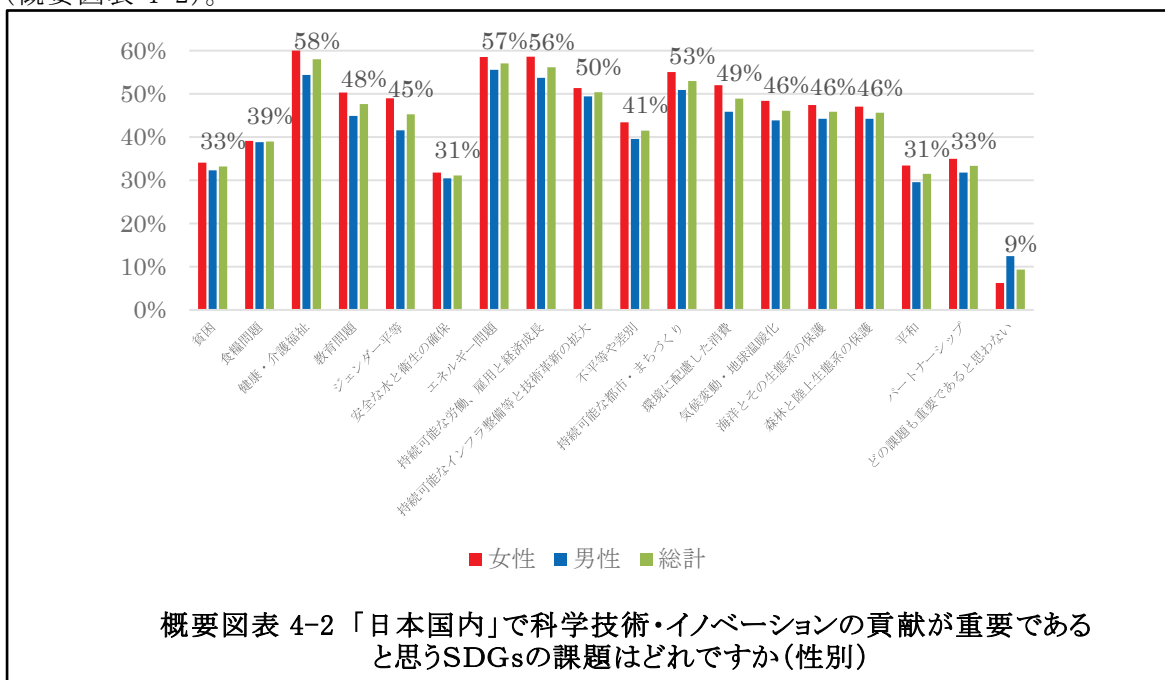


④「世界全体」、「日本国内」、「身近な生活」の3つのスケールでの科学技術・イノベーションのSDGsへの貢献に関する意識

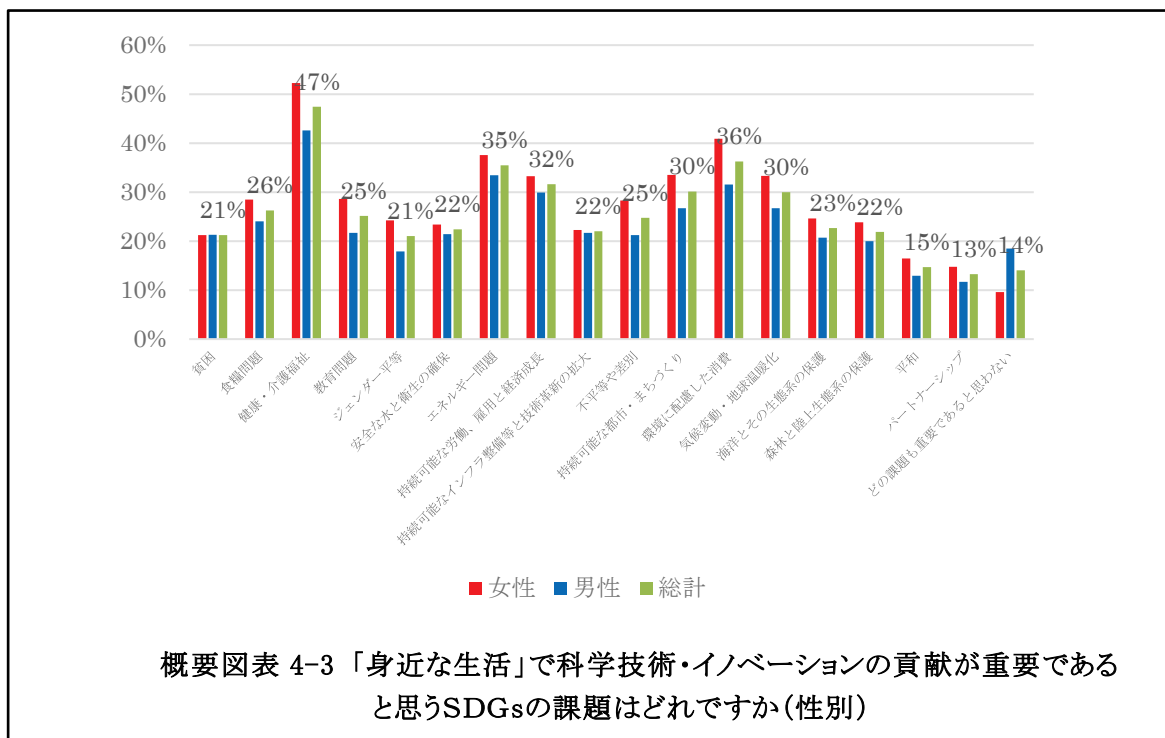
「世界全体」、「日本国内」、「身近な生活」の3つのスケールで考えたときに、「科学技術・イノベーションの貢献が重要であると思うSDGsの課題はどれですか」について訊いたところ、「性別」で見ると、「世界全体」では女性は全ての項目で男性を上回っており、男性より科学技術・イノベーションの貢献に対する意識が強い。特に高いのは貧困、食糧問題(ともに73%)、次いで気候変動・地球温暖化、平和(ともに70%)などである(概要図表4-1)。



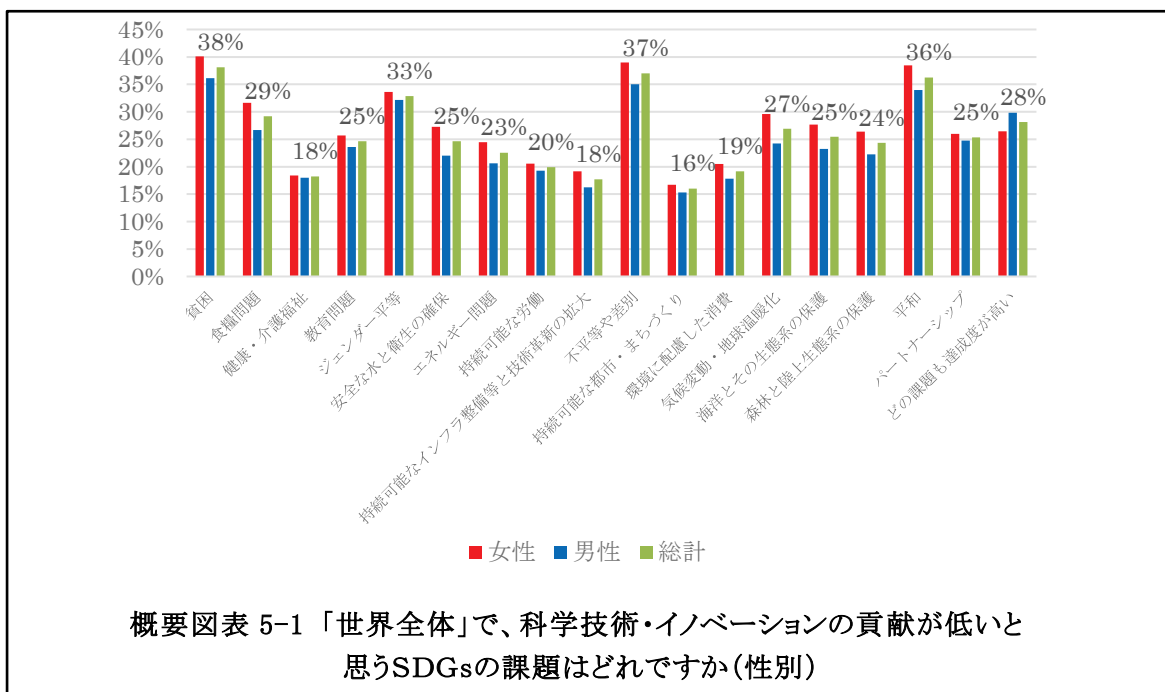
「日本国内」でも女性は全ての項目で男性を上回っており、男性より科学技術・イノベーションの貢献に対する意識が強い。特に高いのは健康・介護福祉(58%)、次いでエネルギー問題(57%)である(概要図表4-2)。



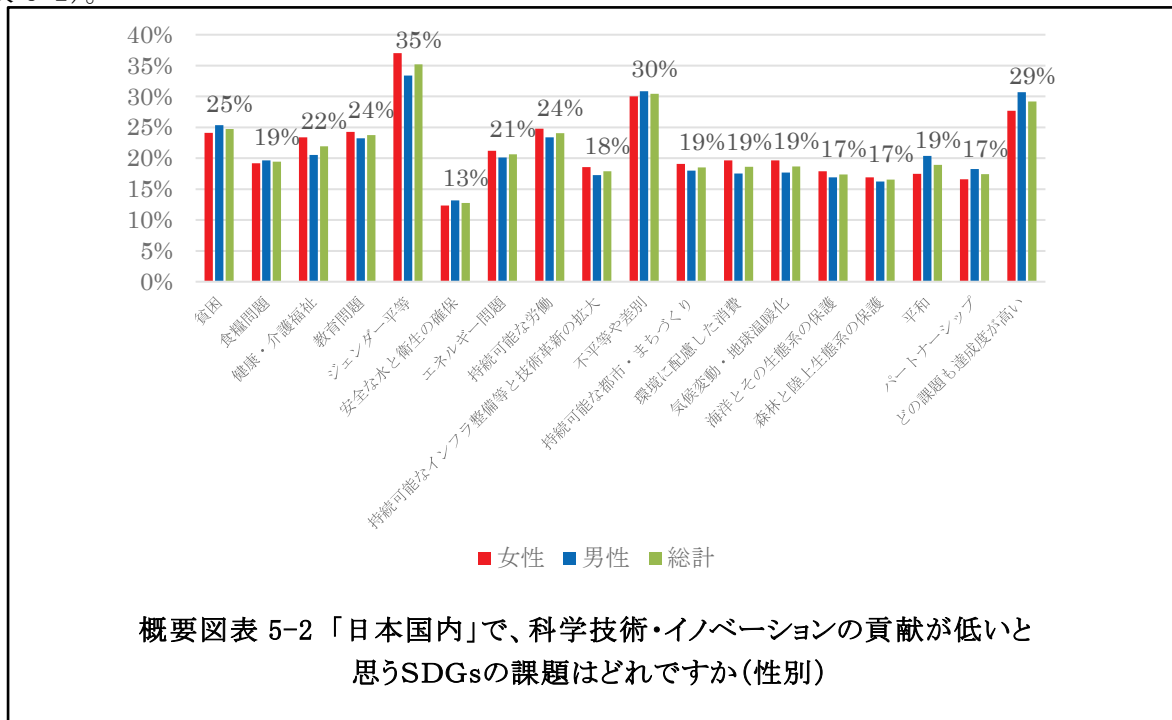
「身近な生活」でも女性は全ての項目で男性を上回っており、男性より科学技術・イノベーションの貢献に対する意識が強い。特に高いのは健康・介護福祉(47%)、次いで環境に配慮した消費(36%)である(概要図表 4-3)。



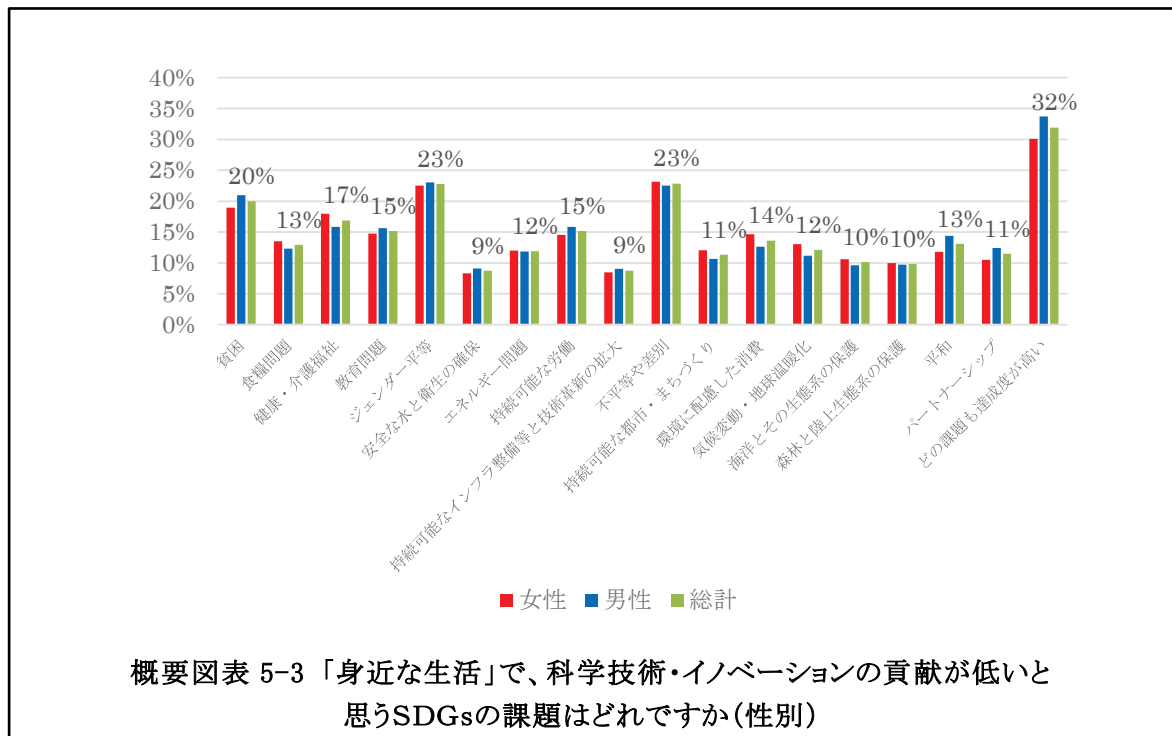
また、「世界全体」、「日本国内」、「身近な生活」の3つのスケールで考えたときに、「科学技術・イノベーションの貢献が低いと思うSDGsの課題はどれですか」について訊いたところ、「性別」で見ると、「世界全体」では女性は全ての項目で男性を上回っている。特に高いのは貧困(38%)、次いで不平等や差別(37%)である(概要図表 5-1)。



「日本国内」では特に高いのはジェンダー平等(35%)、次いで不平等や差別(30%)である(概要図表 5-2)。

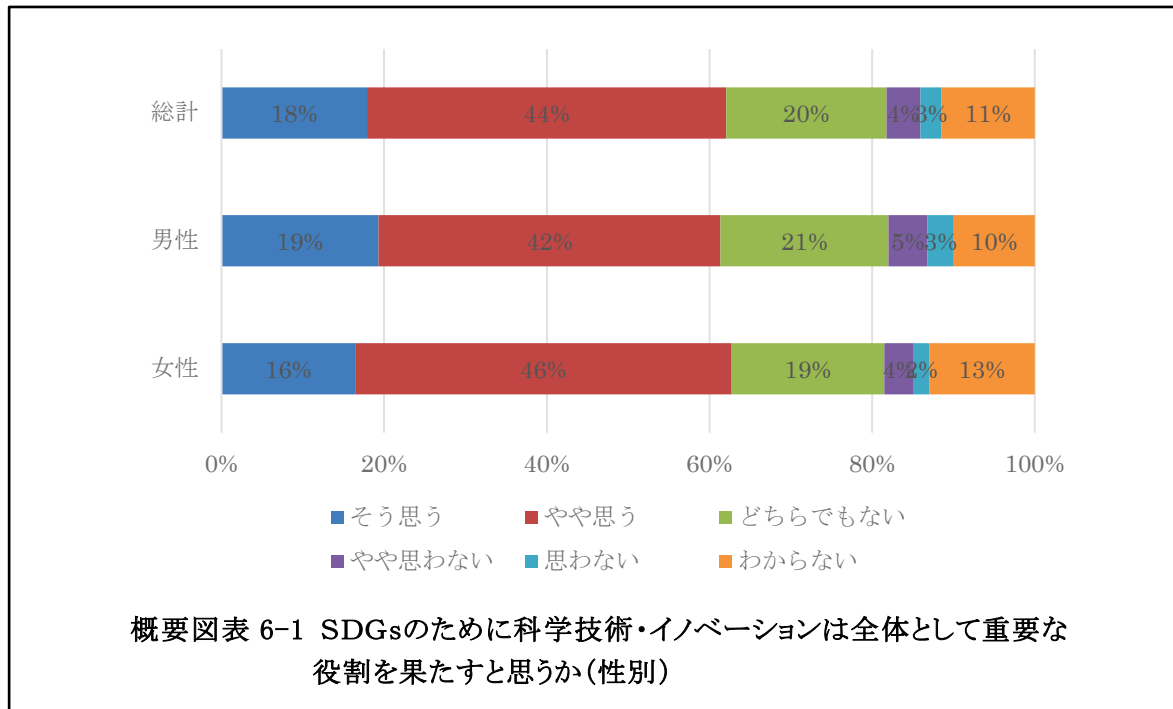


「身近な生活」では特に高いのはどの課題も達成度が高い(32%)、次いでジェンダー平等、不平等や差別(ともに 23%)である(概要図表 5-3)。

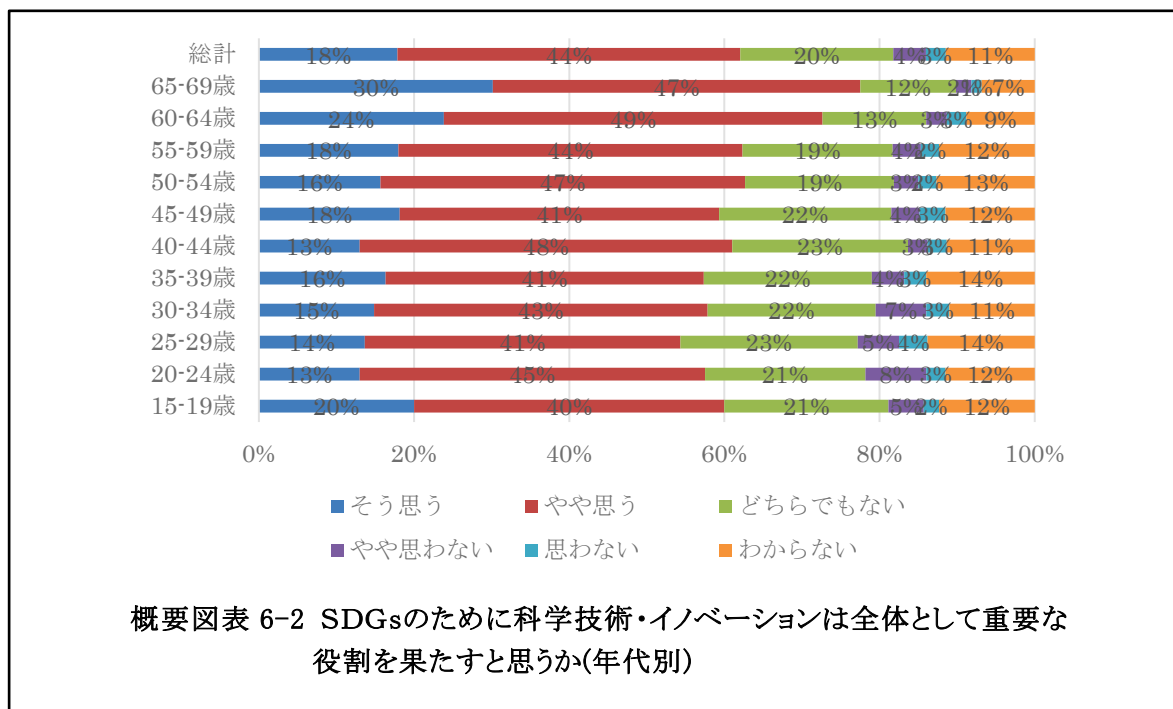


⑤SDGsにおける科学技術・イノベーションの役割に関する意識

「SDGsのために科学技術・イノベーションは全体として重要な役割を果たすと思うか」について訊いたところ、性別では概要図表 6-1 となり、女性((やや)思う 62%)が男性((やや)思う 61%)よりも僅かに大きい。

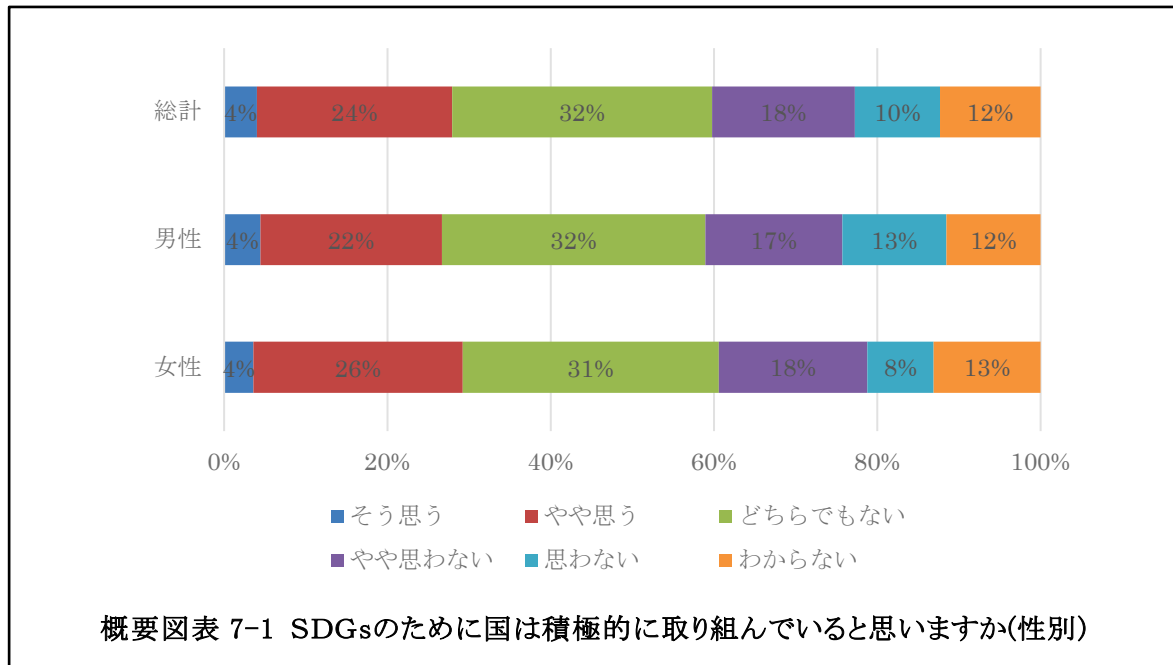


年代別で見る(概要図表 6-2)と 60 歳以上のシニア世代で科学技術・イノベーションは全体として重要な役割を果たすと強く思われている。

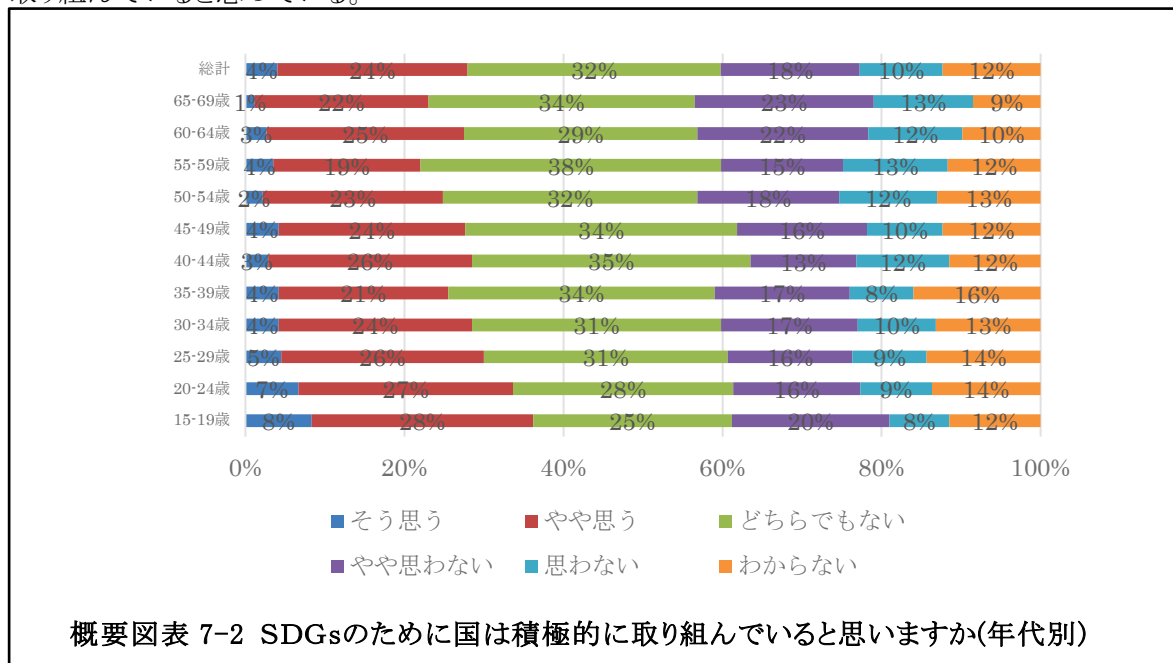


⑥SDGsへの国の取組に関する意識

加えて、「SDGsのために国は積極的に取り組んでいると思うか」を訊いたところ(概要図表 7-1)、女性((やや)思う 30%)の方が男性((やや)思う 26%)より多いという結果となった。

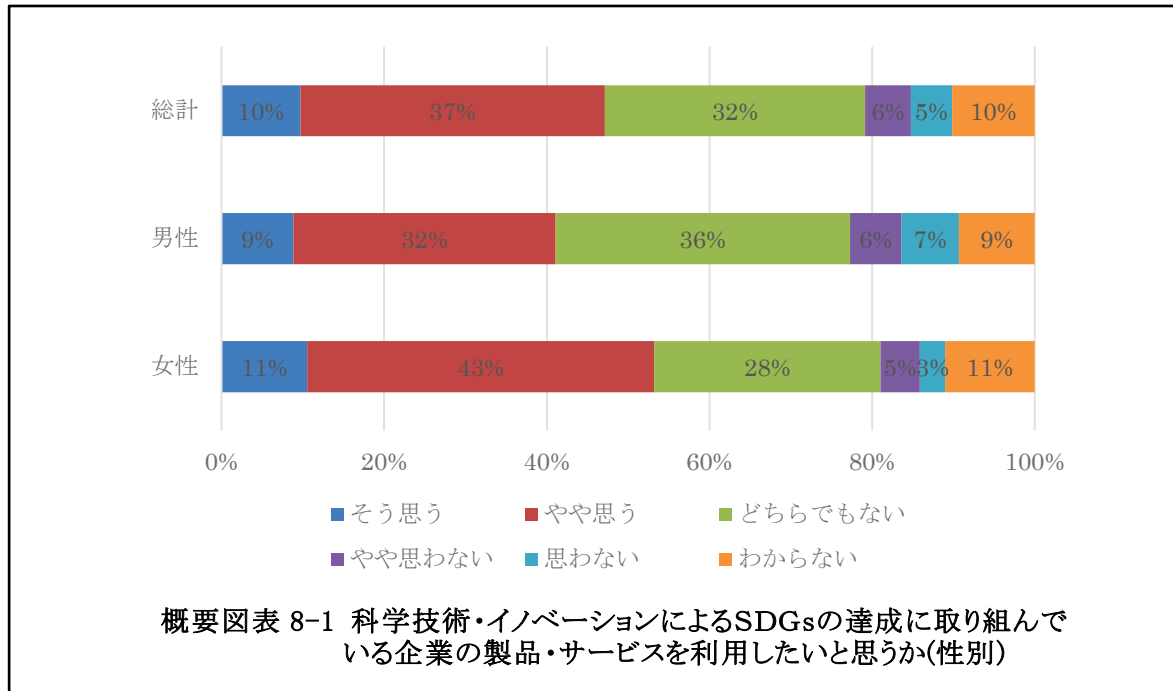


年代別に見ると概要図表 7-2 となり、24 歳以下の若い世代で、SDGsのために国は積極的に取り組んでいると思っている。

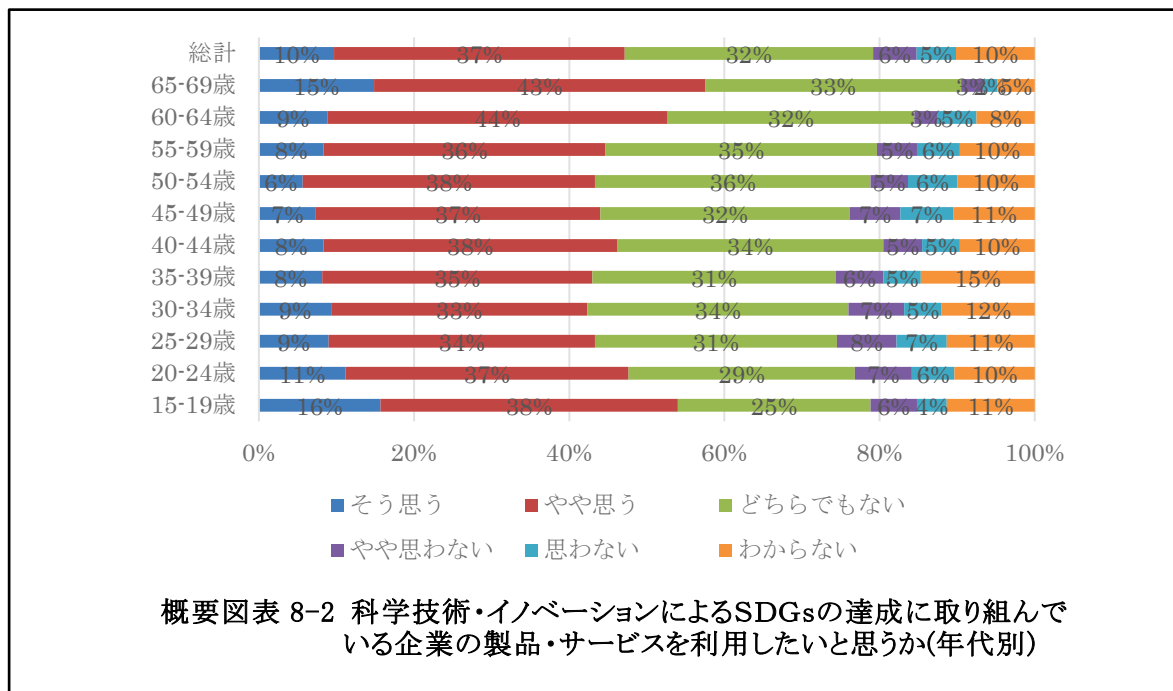


⑦科学技術・イノベーションによるSDGsの達成に取り組む企業の製品・サービスに対する意識

一方、「科学技術・イノベーションによるSDGsの達成に取り組んでいる企業の製品・サービスを利用したいと思うかどうか」を聞いたところ、性別では概要図表 8-1 となり、女性((やや)思う 54%)は男性((やや)思う 41%)よりも遥かに高く、企業の製品・サービスについて高い意識を持っていることが分かる。

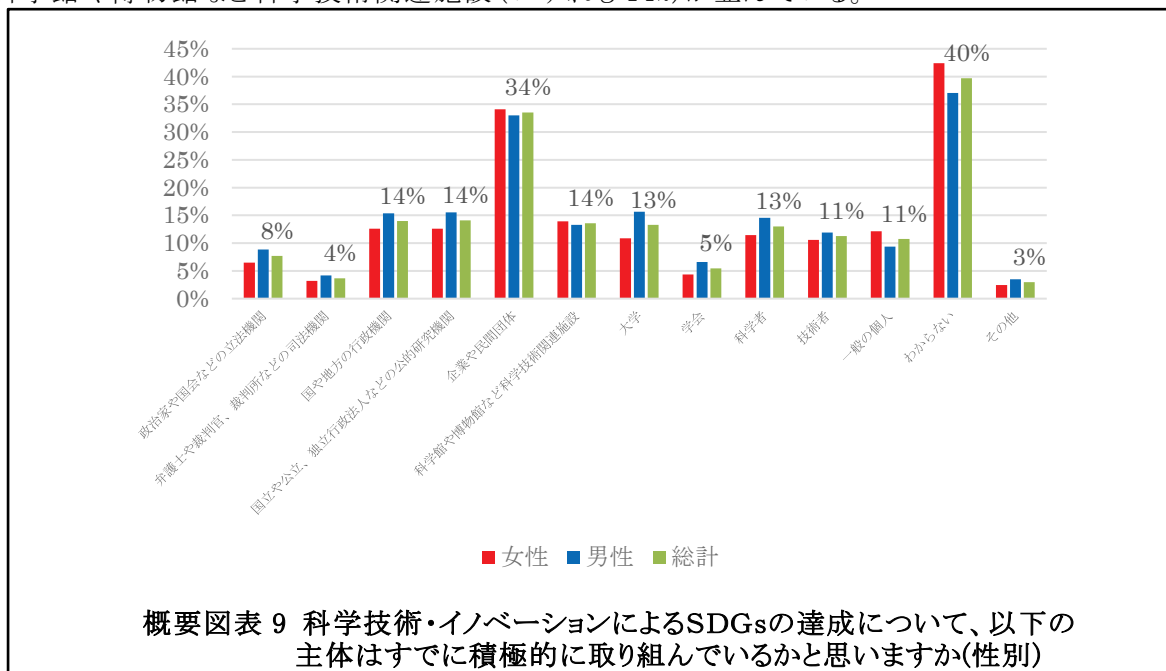


年代別に見ると概要図表 8-2 となり、24 歳以下の若年層、60 歳以上のシニア世代に加えて、40-44 歳の間層でも高くなっている。



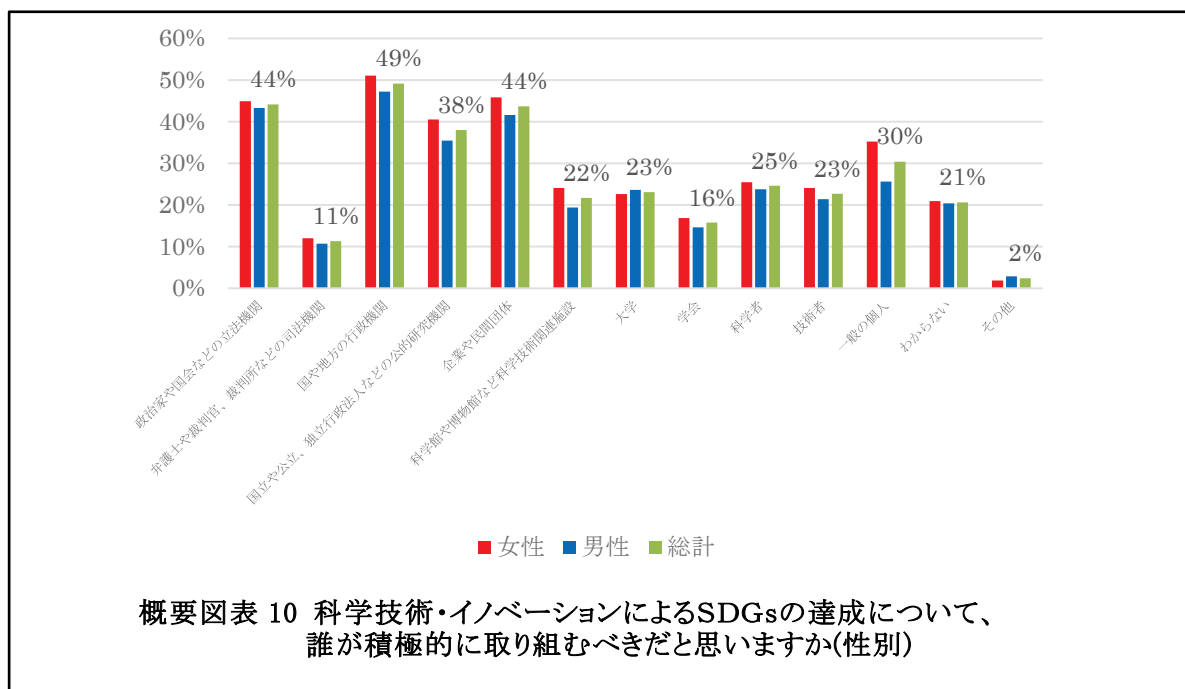
⑧主体別の科学技術・イノベーションによるSDGs達成への取組状況に対する意識

「科学技術・イノベーションによるSDGsの達成について、以下の主体はすでに積極的に取り組んでいると思いますか」について訊いたところ、概要図表 9 となり、わからない(40%)が最多となっているが、次点で企業や民間団体(34%)となっており、企業等の活動が国民の眼に多く映っている。企業に次いで、国や地方の行政機関、国立や公立、独立行政法人などの公的研究機関、科学館や博物館など科学技術関連施設(いずれも14%)が並んでいる。



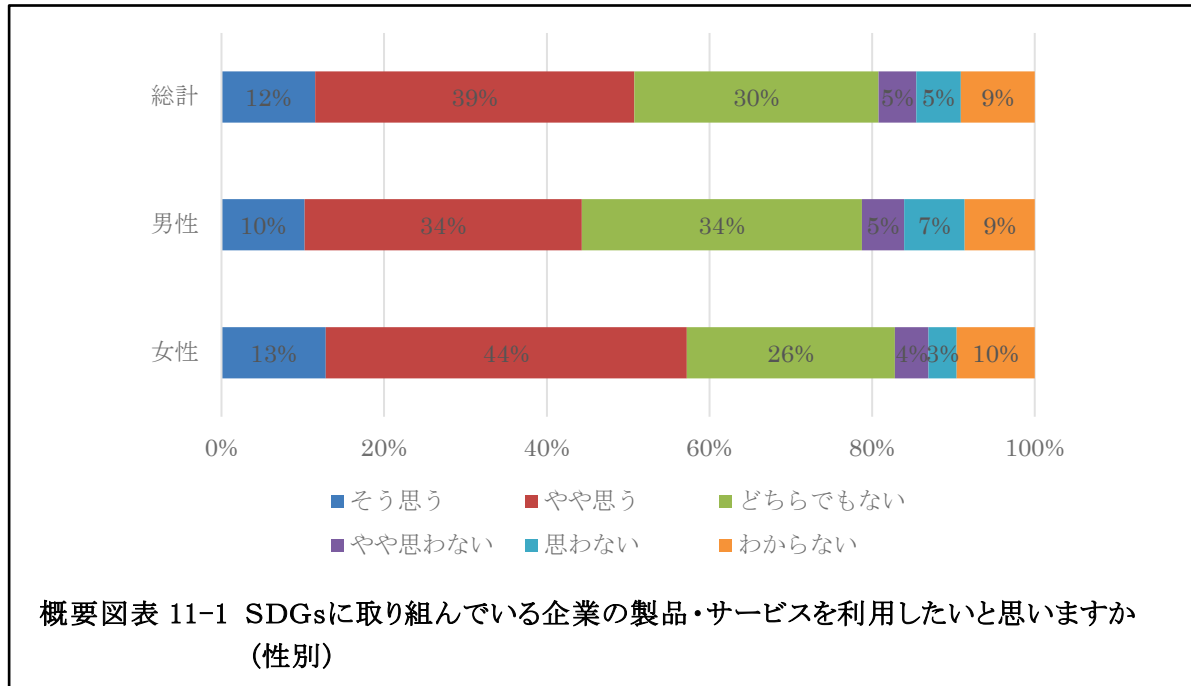
⑨科学技術・イノベーションによるSDGs達成に積極的に取り組むべき主体に対する意識

「科学技術・イノベーションによるSDGsの達成について、誰が積極的に取り組むべきだと思いますか」について訊いたところ、性別では概要図表 10 となった。この結果、国や地方の行政機関が49%とトップとなり、次いで政治家や国会等の立法機関、企業や民間団体(ともに44%)などとなっている。

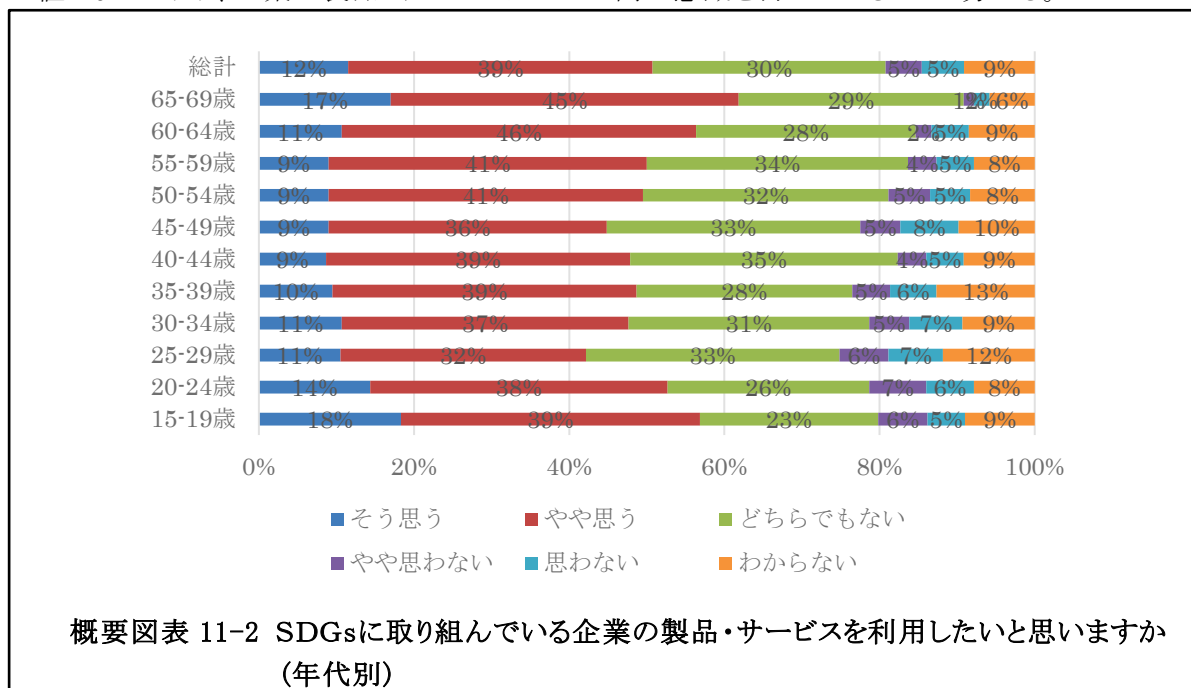


⑩SDGsに取り組む企業の製品・サービスに対する意識

「SDGsに取り組んでいる企業の製品・サービスを利用したいと思いますか」を訊いたところ、性別では概要図表 11-1 となり、女性((やや)思う 57%)は男性((やや)思う 44%)よりも遥かに高く、企業の製品・サービスについて高い意識を持っていることが分かる。

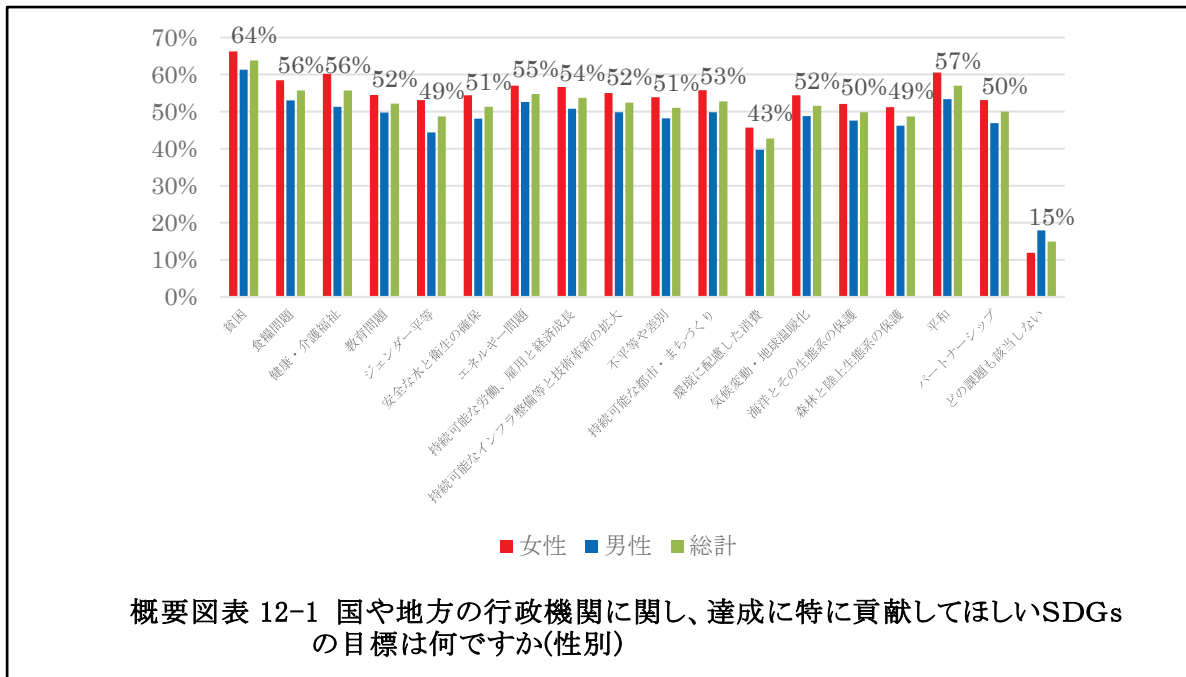


年代別に見ると概要図表 11-2 となり、24 歳以下の若年層、60 歳以上のシニア世代において高い値となっており、企業の製品・サービスについて高い意識を持っていることが分かる。

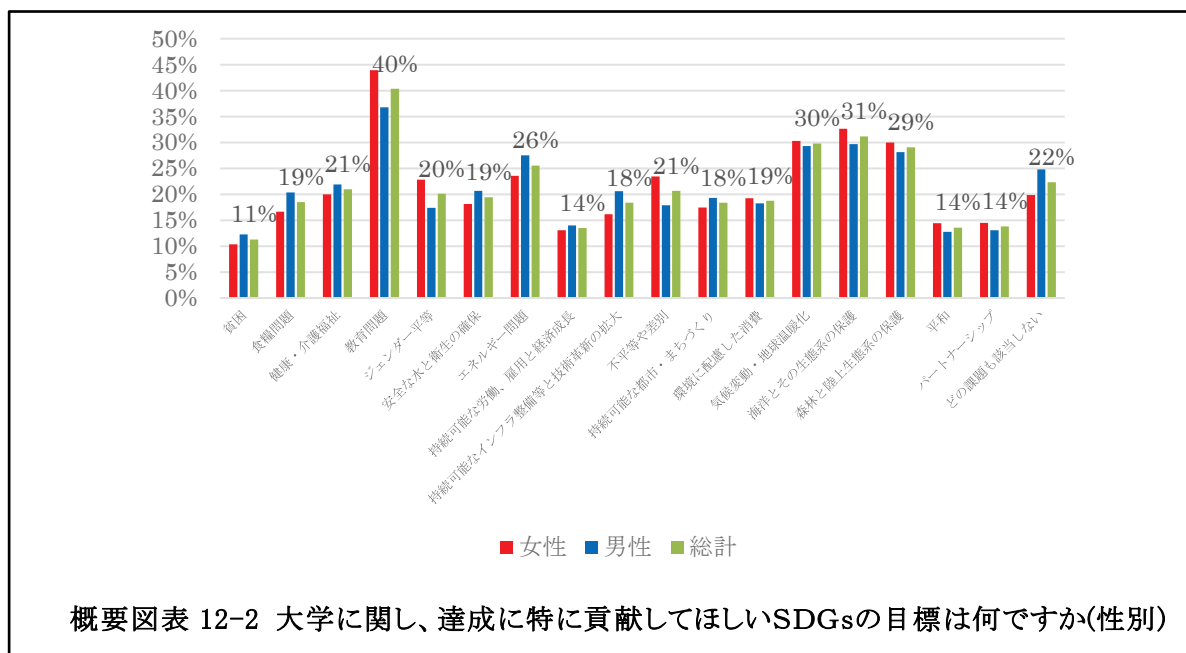


①各主体に関し、特に貢献してほしいSDGsの目標に対する意識

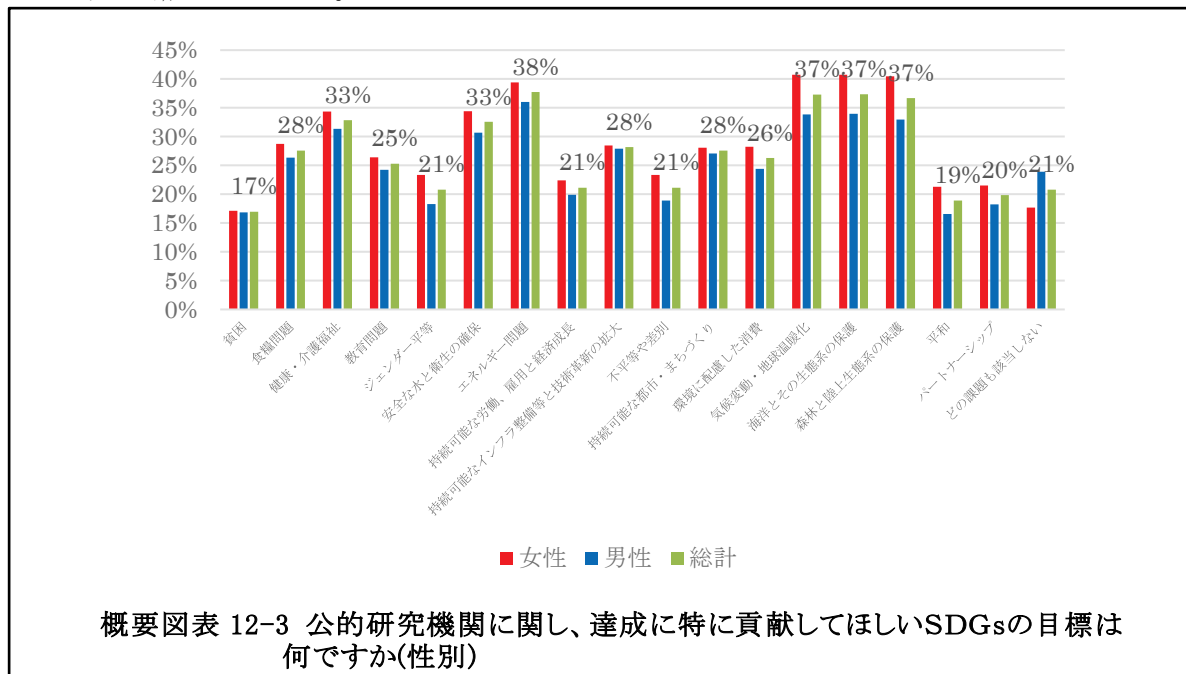
「国や地方の行政機関」、「大学」、「公的研究機関」、「企業や民間団体(公益法人、NPO、NGOなど)」の4つの主体で考えたときに、「達成に特に貢献してほしいSDGsの目標は何ですか」について訊いたところ、国や地方の行政機関については概要図表 12-1 となり、貧困(64%)、次いで平和(57%)となっており、他の課題も多く上がっており、国や地方の行政機関への期待は大きく、一般的な支援が求められていると考えられる。



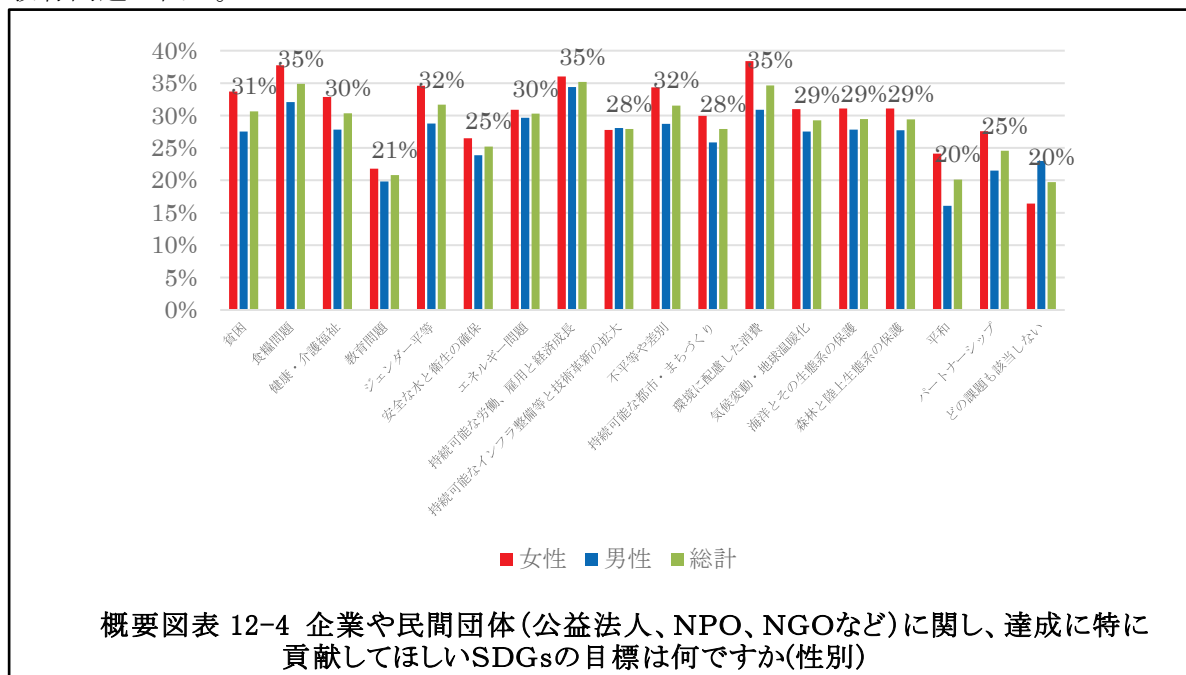
一方、大学については概要図表 12-2 となり、教育問題(40%)、次いで海洋とその生態系の保護(31%)などとなっている。中長期的な課題・視野についてSDGsの課題から出てきている。日本全体の研究者でSDGsの課題に取り組めそうである。



また、公的研究機関に関してはエネルギー問題(38%)に次いで、気候変動・地球温暖化、海洋とその生態系の保護、森林と陸上生態系の保護(ともに37%)などとなっている。科学技術政策的に重要な文脈となっている。

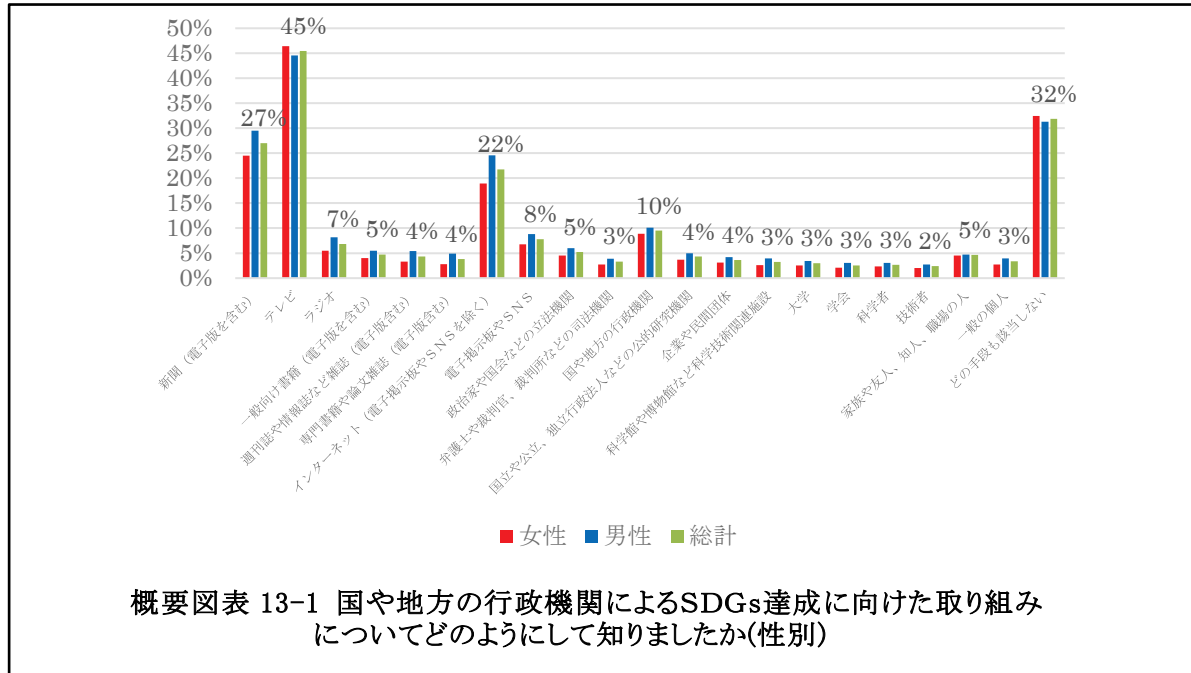


加えて、企業や民間団体(公益法人、NPO、NGOなど)に対しては、食糧問題、持続可能な労働、雇用と経済成長、環境に配慮した消費(ともに35%)などとなっている。大学との対比において教育問題が低い。

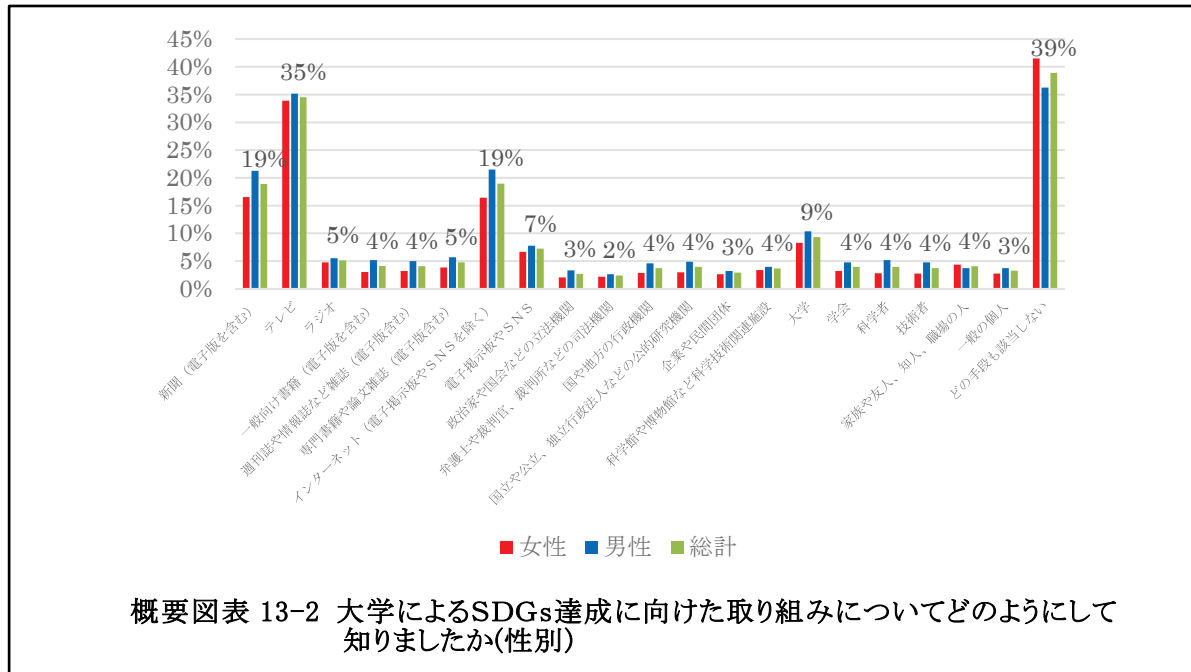


⑫各主体によるSDGs達成に向けた取組の把握手段

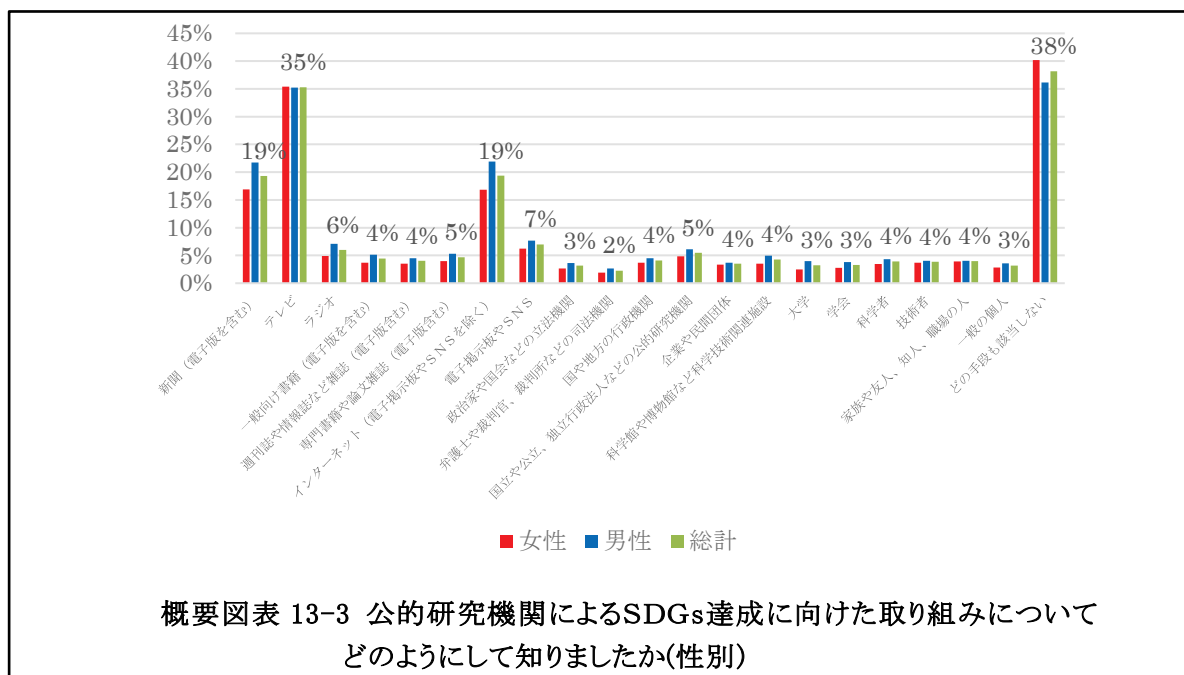
「国や地方の行政機関」、「大学」、「公的研究機関」、「企業や民間団体(公益法人、NPO、NGOなど)」の4つの主体で考えたときに、それらによる「SDGs達成に向けた取り組みについてどのようにして知りましたか」について訊いたところ、国や地方の行政機関については概要図表 13-1 となりテレビが 45%となり圧倒的に高い一方、どの手段も該当しない(32%)がそれに次いで多くっており、次いで新聞(電子版を含む、27%)などとなっている。



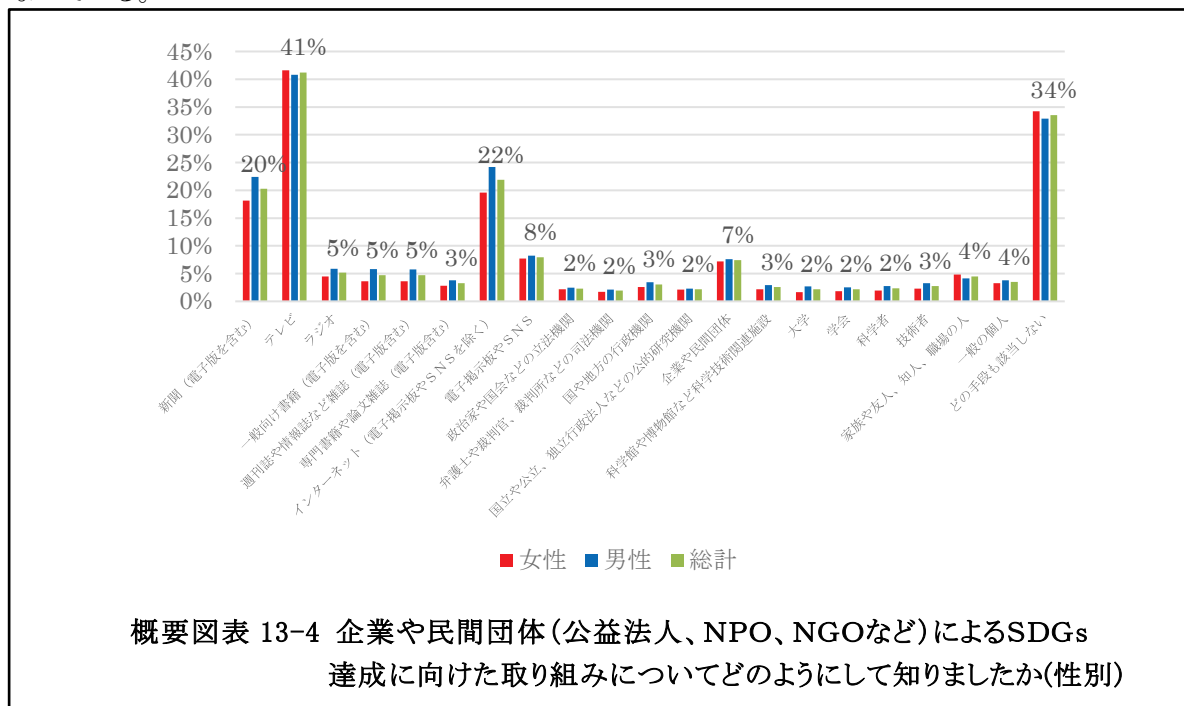
大学については、どの手段も該当しない(39%)と最も高く、次いでテレビが 35%、新聞(電子版を含む)、インターネット(電子掲示板や SNS を除く)でともに 19%などとなっている。



公的研究機関については、どの手段も該当しない(38%)と最も高く、次いでテレビが 35%、新聞(電子版を含む)、インターネット(電子掲示板や SNS を除く)でともに 19%などとなっている。



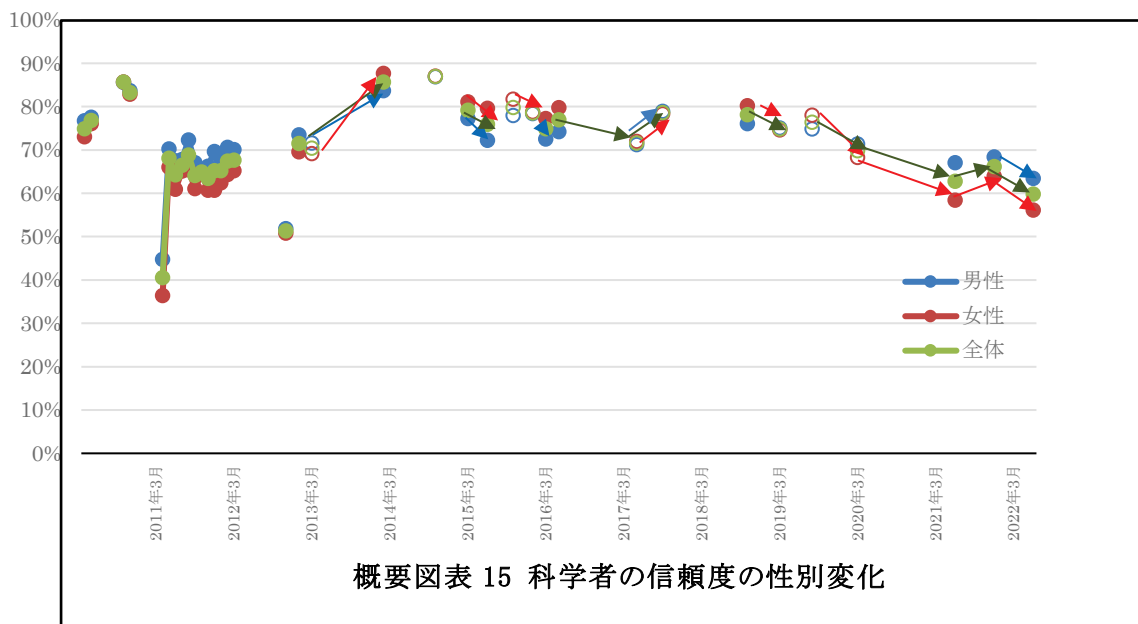
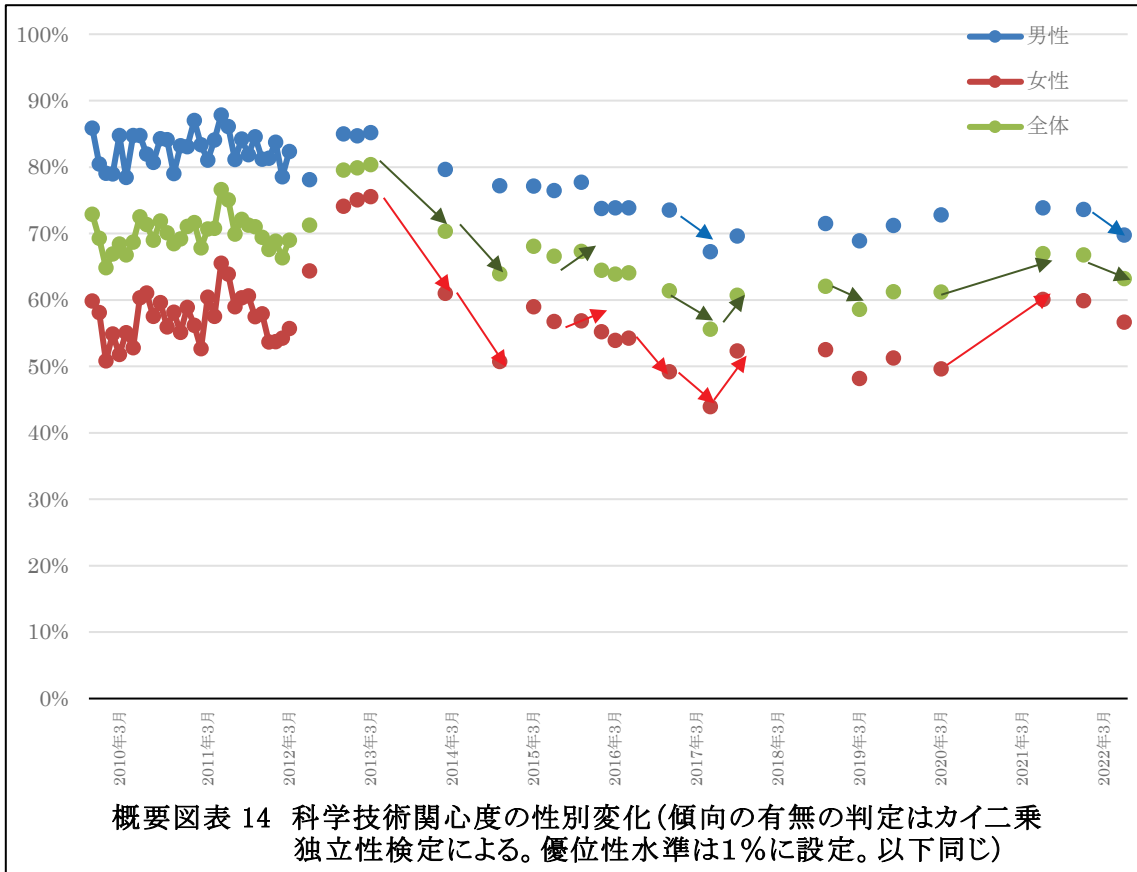
企業や民間団体(公益法人、NPO、NGOなど)によるSDGs達成に向けた取り組みについてはテレビが 41%と最多となっており、次いでインターネット(電子掲示板や SNS を除く)が 22%などとなっている。



2) SDGs以外の科学技術政策に関する国民の意識

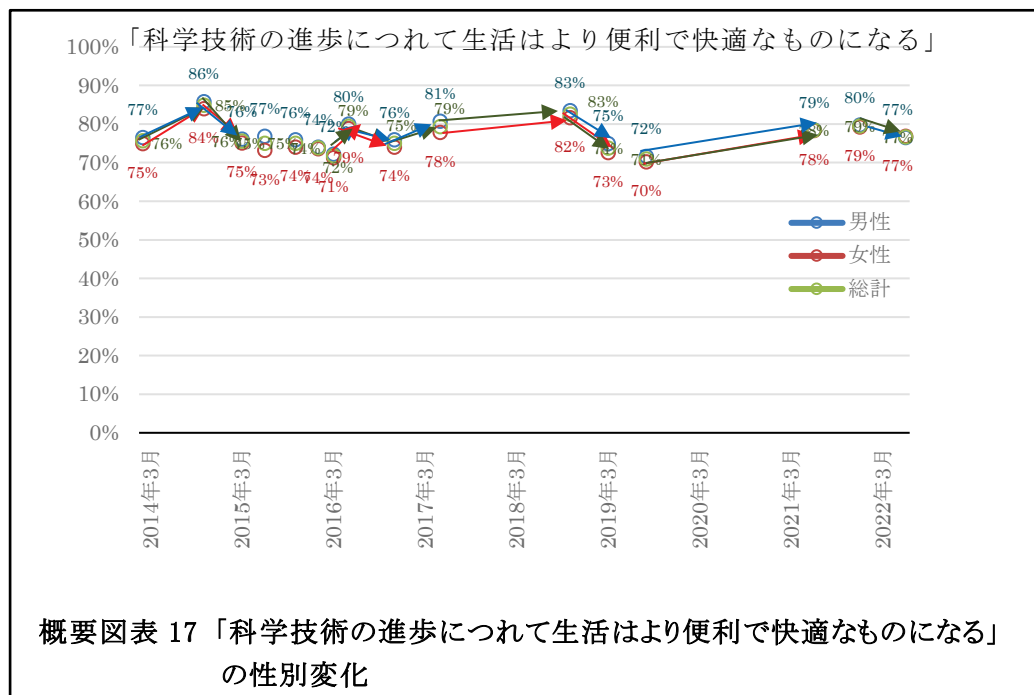
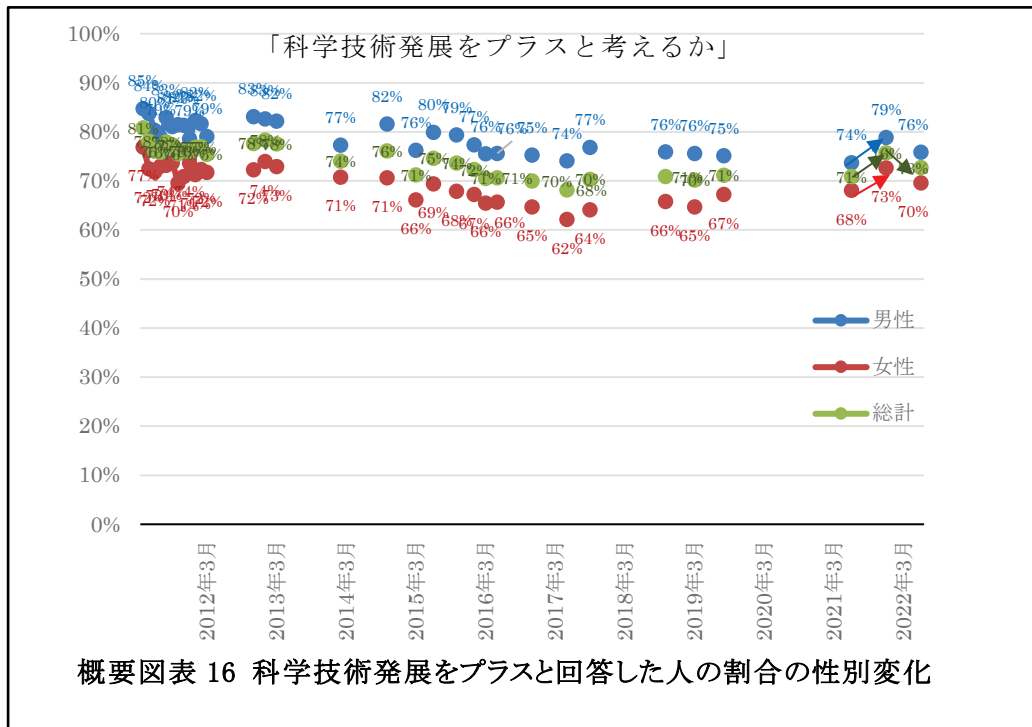
①科学技術に対する関心・科学者への信頼度

科学技術関心度(概要図表 14)、科学者の信頼度(概要図表 15)はともに低下傾向にある。

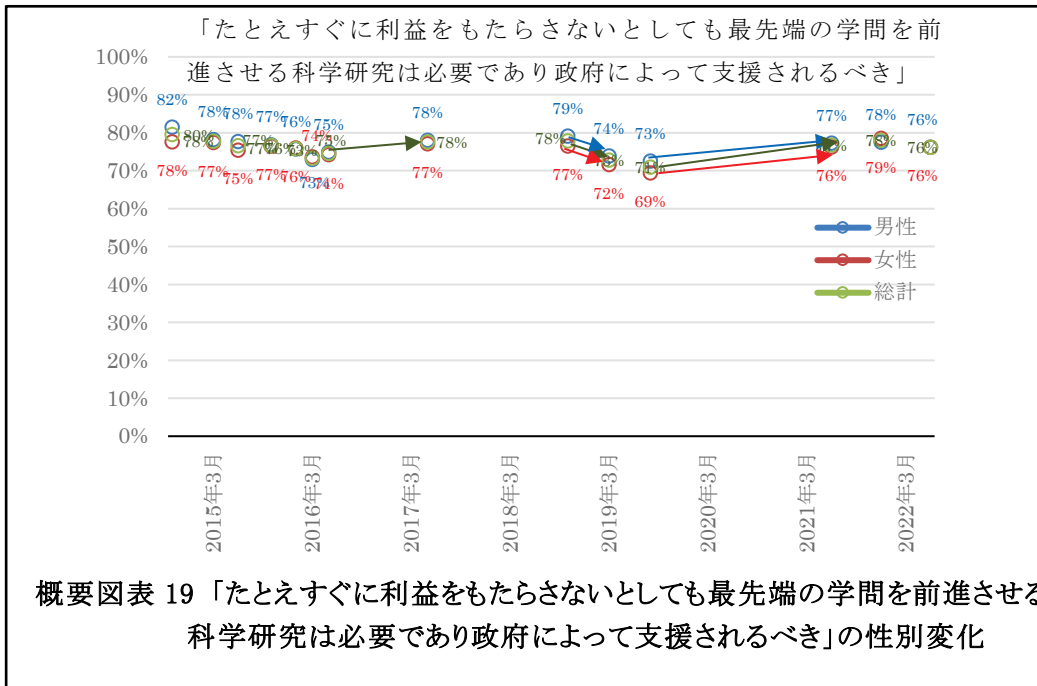
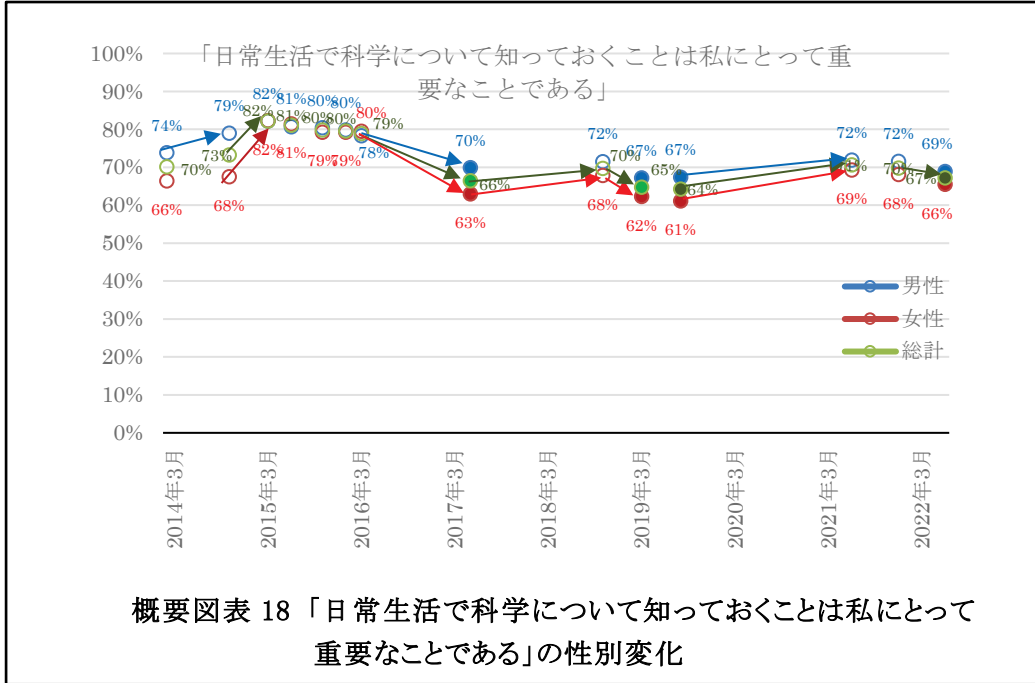


②科学技術に対する評価

科学技術発展をプラスと回答した人の割合(概要図表 16)、「科学技術の進歩につれて生活はより便利で快適なものになる」(概要図表 17)では総計の減少傾向が見られる。



また、「日常生活で科学について知っておくことは私にとって重要なことである」(概要図表 18)では総計が減少しており、「たとえすぐに利益をもたらさないとしても最先端の学問を前進させる科学研究は必要であり政府によって支援されるべき」(概要図表 19)では男女ともに変化は見られない傾向にある。



(4) おわりに

本調査の実施に際し、多大な御協力を頂いた皆様をはじめとする関係者の方々に心から感謝申し上げます。